

論文内容要旨

論文題名：介護老人保健施設で働く看護職の離職意向に影響を及ぼす因子—ワーク・エンゲイジメントに注目した介入を目指して—

専攻領域名：内部障害リハビリテーション領域

氏名：金子 直美

内容要旨

日本の高齢化率が年々上昇する中、高齢者施設も増加している。継続的な医学的管理が必要な高齢者にとって、看護職の役割は重要である。しかしながら高齢者施設で働く看護職の離職率は高い。今回の研究の目的は、高齢者施設の中でも医学的管理が重要視される、介護老人保健施設で働く看護師のワーク・エンゲイジメントに着目した職務継続を促すプログラムの開発を目指し、離職意向に影響を及ぼす因子を明確にすることである。

方法は、国内外の文献 56 件を用いて概念分析を行った後、全国の介護老人保健施設で働く看護職を対象に、属性・職務について・職務満足・学習ニード・健康状態・ワーク・エンゲイジメント・離職意向を調査した。調査用紙の配布は、全国から抽出した 188 の施設の施設長または管理者に各 5 部ずつ郵送し、施設長、管理者の判断により、対象者に配布していただくこととした。分析は共分散構造分析を用いてワーク・エンゲイジメントに影響を及ぼす因子を明確にした。

結果、概念分析においては、高齢者施設で働く看護師の職務満足とは「高齢者施設に所属し看護職に従事する中で感じた感情を評価したものであり、その評価は職務環境や看護師自身の健康や職務意欲により変化し、職務継続の意思を決定づけるもの」と定義された。そしてこの概念をもとに、

質問紙調査を行った結果、297部が返送され、有効回答数は183部であった（有効回答数19.5%）。パス図は、4つの潜在変数と14個の観測変数から構成された。適合度指数は、 $GFI=.915$ ・ $AGFI=.878$ ・ $CFI=.973$ ・ $RMSEA=.059$ で、 $AGFI$ はやや値が低いだが、全体的に良い当てはまりを示した。潜在変数間で因果関係が示されたものは、「健康から離職意向」（標準化係数 $-.30$ ）・「職務満足から離職意向」（ $-.48$ ）・「健康からワーク・エンゲイジメント」（ $.44$ ）・「ワーク・エンゲイジメントから職務満足」（ $.69$ ）・「働く理由からワーク・エンゲイジメント」（ $-.16$ ）であり、「学習ニーズと働く理由」には弱い相関がみられた（ $-.25$ ）。

これらのことから、概念分析ではワーク・エンゲイジメントと離職意向は直接的に関連しているという結果であったが、共分散分析の結果、ワーク・エンゲイジメントは職務満足を介して間接的に離職意向と関連性があることが分かった。間接的ではあるが、職務満足のワーク・エンゲイジメントに着目することは、離職予防に有効であることがわかった。そして、健康観とワーク・エンゲイジメントには関連性があることから、対象看護職の背景に考慮した身体、精神、社会的サポートを行うことはワーク・エンゲイジメントを高めるとともに離職予防にも有効であることも示唆された。そして、ワーク・エンゲイジメントと高齢者看護や福祉に興味があることとが関連性があることから、職務を遂行する中で感じる楽しみや充実感を意識的に感じるように支援していくことは、ワーク・エンゲイジメントを高めることにつながることを示唆された。